

Pierre Dubois

[ピエール・ドゥロッシュCEO]
ピエール・デュボア氏

デュボア家の次男として生まれながら、
USB銀行勤務を経てオーデマ・ピゲに計務で入社。
14年間勤務してCFOにまで就いたあと独立。
2005年にピエール・ドゥロッシュを設立する



Dubois

同軸積算表示のアイデアが 30年の時を超えて具現化

デュボア・デブラ社は、これまで公然とメディアに登場するメーカーではなかった。1901年からスイス時計界に深く関わってきたクロノグラフ・モジュール会社だけに、そのひと言が時に大きな波紋を呼ぶ可能性があるからだ。

ラルド氏にとって、案に思入れの深いものだった。
「30年くらい前の話になりますね。特許を取ったまま、お蔵入りになってしまったムーブメントがあるんです。クロノグラフの積算計を組み合わせるために、12時間積算計、60分積算計、クロノグラフ針を1軸にセットしたものを、これなら時刻表示と同じ感覚で、クロノグラフの経過時間が読めますよね。でも当時はクォーツ全盛の時代で、私が作ったのもクォーツ式。今回は3年かけて、自動巻きムーブに仕上げました。」
シエラロッド氏
「それが、スプリットロックに搭載されているキャリバーです。自動巻き化の過程で、文字盤上部に

あつた時分針をセンター軸に配したのです。」
シエラロッド氏
ムーブメントは、従来の見えない不思議な構造になっている。ケース上部にレディス用ETA2671ベイスの軸列機構やかさ上げしたロスターがあり、クロノグラフ機構はケース下部にまとめられている。12時側と6時側に分離したベイスムーブとクロノグラフ・モジュールという関係が新鮮だ。

「同軸による積算表示は、このスプリットロックが2005年に実現したことです。その後、2006年にジャガー・ルクルトやIWCも同軸積算表示をやってきました」

デュボア父子へのインタビューに成功!

2010年問題は深刻です。 ETA2892を越える 代替ムーブは難しい

デュボア・デブラ社といえば、クロノグラフ・モジュールの大御所メーカー。その名門デュボア家の次男が、2005年、新たに時計ブランドを立ち上げた。搭載するのは父親の専用ムーブ。話はETA2010年問題にまで及んで…!?

新興ブランド「ピエール・ドゥロッシュ」

グランドクリフ アニュアル カレンダー パワーリザーブ

180万6000円
ラウンド型クロノグラフのグランドクリフに、今年、年次カレンダーとパワーリザーブ表示を追加搭載。フライバック機構を備え、トップデイトや各時計を見やすく配置。11月発電子光。自動巻き。100m防水。55



スプリットロック・ ゴールド

373万8000円
18KPGケースを採用した。世界21本限定モデル。12時位置には小窓で日付をディスプレイ表示。その下に小さなパワーリザーブ表示。クロノグラフのスタート・ストップボタンは右側面。リセットは左側面に設置する



142万8000円
クロノグラフ機構を下部に集約し、12時間積算計、60分積算計、赤いクロノグラフ針を6時に同時で読取。1・5・7・11の独立したインデックスが目を引く今年の最新デザイン。デュボア・デブラ社CM。PCF400-1搭載。自動巻き。30m防水





Gérald Dubois

【デュボア・デブラCEO】
ジェラルド・デュボア氏

1901年に創業したデュボア・デブラ社に、
1960年入社、1979年社長に就任。
1989年に完成した貴族級の自動巻きムーブ
「クロノマチック」開発でも重要な役割を果たす

Dubois

た。我々は先賜ブランドとして、誇らしいですね(「ジェール氏」)
3人兄弟の兄と弟は、デュボア・デブラ社で働いている。次男だけ、家業の外に出たことを、父親はどう思っているのだろうか。
「それは個人の生き方だから、私がとやかく言えることではありません。でも、オートデマ・ピゲの社長から電話を受けたときは驚きました。いい財務担当者を見つけたよ、ピエールだよ。って。銀行に勤めているとはかき思っていたら、財務分野とはいえ、時計業界に入ってきたことにビックリしましたね。そして今回「今までにない時計を作りたい」と言い出してね。その熱意に共感して、長男、三男を含めて、デュボア・デブラ

社が全面的に協力することになったのです(「ジェラルド氏」)
納期を教えてくれないと時計作りが続けられないとクオーツ・ショックで一時は規模を縮小したデュボア・デブラ社も、現在はスタッフ2500人を抱える大企業。イチから作り上げた複雑ムーブも年間数十個の単位ながら露上ブランドに納品しているというが、やはりメインはETAムーブをベースにしたクロノグラフ・モジュールの追加搭載だ。「最初からクロノグラフ・ムーブとして設計するよりも、ベースムーブにクロノグラフ機構を追加搭載するモジュール式のほうが、スペース的には圧倒的に有利。それ

に私がベースムーブにETAを選ぶのは、コスト面や完成度などを総合して、やはり一番優れていると考えるからです。代表的なETA 2892は、もう30年以上作られているロングセラー。これに代わるムーブをテクニクタイムやセリタなどが発表し始めましたが、代替ムーブと呼ぶには不満が残ります。ETA 2892レベルに届くには、何年、何十年もの経験が必要でしょう(「ジェラルド氏」)
では、ETA社が2010年以降、スウォッチグループ以外にベースムーブを供給しないと発表している、いわゆる、2010年問題への対策はあるのだろうか。「2010年問題自体、実際のところどうなるのか、我々にもわからないのです。2008年末までに、供給量を制限するとは明言されていますが(「ジェラルド氏」)「現実的に、すでに影響は出ていますよ。ETA社が私たちに言うには「まだムーブメントは提供しますよ」と。でも、いつ入ってくるかわからない。時期を教えてくれないんです。昨年、ある文字盤工房がスウォッチグループに買取されましたが、これもスイス時計業界のグループ再編の動きに関係しているようです(「ピエール氏」)

ETAムーブを基盤とするデュボア・デブラ、そしてピエール・ドゥロッシュによって、かなり深刻な事態だ。この激動の時代を生き残る鍵となるのが、オートデマ・ピゲのCTFOにまで登りつめたジェール氏の経営手腕。そして名門デュボア家に受け継がれた時計製作への「情熱」にはかならない。



スプリットロックに搭載される50k. POR401-1, ETA2071をベースに、デュボア・デブラがクロノグラフ・モジュールを追加搭載。スモールセコンドの軸を延長して歯車を設置し、これに金色の巨大な中間歯を組み合わせ、下部クロノグラフ機構を駆動

名門デュボア家から生まれた



仕上げの裏ボタンに世界地図をデザインしたリレーフ、ゲージは42.5mm



グランドクリフGMT

100万8000円

2時の+ボタン、4時の-ボタンで第2時間帯を簡単に操作可能なGMTモデル。文字盤内蔵のロイターダイヤルもその操作に連動する。デュボア・デブラ製自動巻きムーブ搭載、11月発売予定。自動巻き、100m防水、SS